

第3回岐阜市教育振興基本計画検討委員会

事務局説明資料

R4.10.4

1. 本日の審議事項について

1-1. 教育委員会の諮問の概要

■ 諮問事項

1. 岐阜市教育大綱の基本方針、及び子ども、学校・教職員、家庭・地域それぞれの目指す姿を具現化するための今後5年間の教育の基本的方向性と主な施策
2. コンパス・キューブやコモン・チャレンジ・サポートの考え方を、次期計画の目指す教育の在り方に即した形へと発展させていくための視点
3. 「オール岐阜市」で取り組むために、全ての人々にとって身近で、親しみやすい計画とするための工夫
4. EBPMの考え方に基づく、客観的な根拠に意を用いた計画の点検評価の手法

■ 次期計画において見据えるべき教育の潮流

教育のデジタル化の進展、令和の日本型学校教育の姿のもと、教育のリ・デザインを進めていく必要性

- ・ デジタルとリアルの融合による創造的な学びなど、ポストコロナの時代に即した教育や学習の在り方の検討
- ・ 個別最適な学び、協働的な学びの充実を通じた、学習者主体の学校教育システムへの転換
- ・ 新しい時代の学びを支える未来の学校づくり(教職員の働き方・資質能力、新たな学校形態・施設整備等)

■ 次期計画において本市が大切にしたい教育の在り方

- ・ 岐阜市教育大綱の基本方針を、次期計画における本市の教育の礎となる考え方として置く
- ・ これからの未来を生きる子どもたちの今をしっかりと見つめ、誰一人取り残すことなく、一人ひとりが内に秘める可能性を最大限に引き出す教育の実現
 - 多様性が尊重され、誰もが自分らしく学びを深めていく中で、将来の夢や目標、自己肯定感を育む
- ・ 全ての大人が「オール岐阜市」で、子どもたちの学びと成長を支援、後押ししていく

1-2. 本日も審議いただきたいこと

- 本日は一点、以下の事項についてご審議いただきたい

本日の審議事項

諮問事項の1~4に対する答申内容(骨子)について、
ご意見・ご示唆を賜りたい

→ その中でも特に、諮問事項1の答申内容に関わる
計画の枠組みの全体像及び基本目標の柱建て(修正案)を
メインに、ご意見・ご示唆を賜りたい

- ▼ 今回は細部を修正する段階であるとし、(修正案)の言葉の整理、
軽微なデザイン修正等についてご意見いただき、次回の会議で
委員会として(最終案)をまとめていただく予定です

2. 諮問事項1について

子どもの位置づけを 一つ上段に置く

- ・子どもの基本目標について、自分らしさが土台にあって、その上に学びのチカラと健やかな心身があると考えるが、今の全体イメージ図でその関係性が伝わりにくいと思う。
- ・3主体の子ども、学校・教職員、家庭・地域が並列であることに違和感がある。子どもたちにこんな姿を持ってほしいという思いを持ち、そこに向かって大人が目標を持って取り組む。子どもは一つ上段にある。
- ・子どもの立場からすれば、こういう力を持ちなさいと押し付けられるのは、荷が重いしプレッシャーになる。大きなお世話かもしれない。「なります(なりなさい)」じゃなく「なってほしい」と大人が願い、行動するという形が良いと思う。子どもを大人と同じ階層に並べるのは少し怖いと感じる。
- ・この全体イメージ図は、立体構造だと思う。子どもが未来に進めるように、大人がスクラムを組んで支え、さらに次の世代へと循環していくようなイメージ。
- ・子どもも含め、学校、行政、家庭、地域のそれぞれが別々、構造的に分断されている印象を持ってしまう。また、大人がお互いに連環するなど、連携して取り組んでいく姿の表現を工夫できると良いと思う。

2-2. 第2回会議の意見まとめ（2）

- ・子どもに関して、少し言葉がシンプルすぎて、意味がそぎ落とされていると感じる。夢、幸せ、勇気などの言葉を足しながら、扉を開く力を育てていくことを、もう少し具体的な姿としてイメージできるよう、表現できないか。
- ・教職員が教えることに子どもたちが向かっていくように、子どもと学校・教職員の柱建て、両者にもう少し連動性が感じられるようにした方がよいのでは。
- ・個の大切さとともに、人間だからこそその関わり合い、集団の中で協働して学び合う、コミュニケーションを柱とした教育が大切ではないか。
- ・子どもの未来への扉を開ける力としてこの3つでは、おとなしい子どもだなという印象。もっと躍動感のある姿にしてはどうかと思う。
- ・課題・興味を持ち、探究する中で学び育つことが重要な要素だと思う。経産省の未来人財ビジョンも「自ら育つ」がキーワードで、まさに探究を推している。
- ・ふるさと岐阜市学「ぎふMirai」において、リアルにつながる学び（人の生き方やまちの文化）に触れ、豊かな心や夢のある未来を育むことが大切ではないか。
- ・岐阜市らしい計画としていく一案として、このふるさと岐阜市学「ぎふMirai」をもう少し前面に出してはどうか。これを学校でも家庭でも地域でも学ぶ。

子どもの柱建ての 内容を明確にする

2-3. 第2回会議の意見まとめ (3)

学校・教職員、 家庭・地域で 留意すべき観点

- ・働き方改革が求められている中で、先生方がこの目標に対応できるのか、負担が心配。研修体制やサポートがちゃんとあってこそ、これらが実現できると考える。
- ・学校・教職員のやることがたくさんある。負担感をおさえつつ、先生たちのチャレンジを応援していくことが感じられるようにしてほしい(グルーピング・段階)。
- ・家庭での学びについては、家庭教育の充実を後押しする、親学びを応援する姿を中心に考えることがよいと考える。
- ・子どもに関わることで、大人も共に成長する場となる。子どもの教育を通じて、子どもも大人も学び合うというイメージを感じられるようにしてほしい。

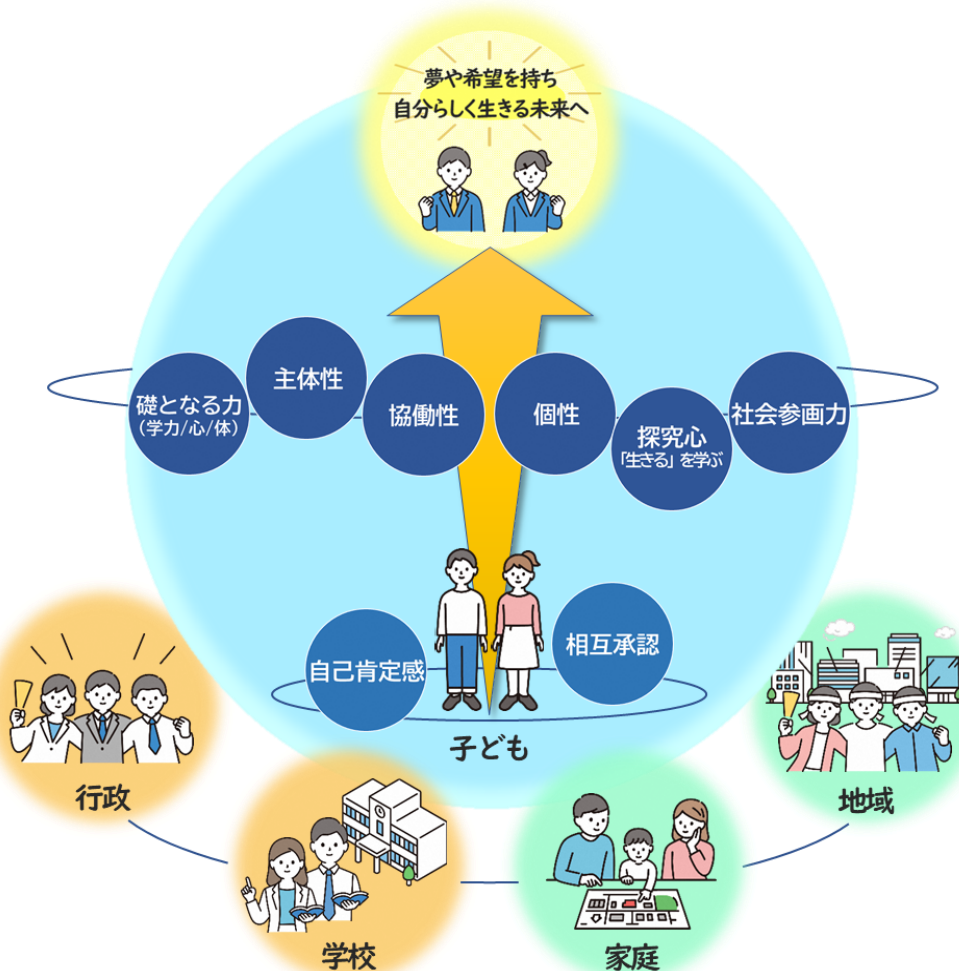
計画に込める思い について説明する

- ・岐阜市の教育がどう変わっていくか、色々とチャレンジしていると思う。だからこそ、筋を通そうとしている思い(哲学)を伝えるための内容があった方がよいと思う。
- ・こうしたコンセプトやその意義をはじめに説明すべきではないか。これは、今回の教育振興基本計画が前回までとどのように異なり、どのような転換を図ったのか、ということを説明することにもなる。
- ・根底にある熱いところを伝える教育長のメッセージがあってもよいと思う。

2-4. 計画の枠組みの全体像 及び 基本目標の柱建て(修正案)

第4期岐阜市教育振興基本計画 体系図

～子どもたちの輝く命、未来を拓く力を育む～



基本目標と主な取組



1. 一人ひとりのよさが輝き、互いに認め合う心を育む教育

- ・ 生命の尊厳への理解を深める学びの推進
- ・ いじめの防止等のための総合的な取組の充実

2. 主体的かつ協働的な学びを通じて、礎となる力を育てる教育

- ・ 個の理解に応じた学びの推進
- ・ 対話を重視した、協働的な学びの推進
- ・ デジタルを駆使した学習活動の充実
- ・ 好奇心、探究心、創造力を育む教育の推進
- ・ 豊かな心、健やかな体の育成

3. 多様な個性を生かし、可能性を伸ばす教育

- ・ 特別支援教育の充実
- ・ 不登校児童生徒の学びの場の支援
- ・ 経済的理由や外国籍等の背景を持つ児童生徒の学びの支援
- ・ 幼児教育の充実
- ・ 特異な才能を生かす学びの充実

4. このまちと人から「生きる」を学び、社会参画する力を培う教育

- ・ 「ぎふMirai's」の取組の推進
- ・ コミュニティ・スクールの取組の更なる深化
- ・ 身近な課題や社会との関わりを通じた学び・体験機会の充実

5. 子どもと深く向き合い、温かさとしながりにあふれる学校・園づくり

- ・ 学校業務改革と教職員の働きやすい環境づくり
- ・ 教職員の資質・能力と専門性を高める、研修体制の充実

6. 新しい時代の学びを見据えた、教育システムの整備

- ・ 教育DXを推進する、学校のデジタル環境の充実
- ・ 将来の学校のあり方を踏まえた、新たな教育制度や多様な学校形態の展開
- ・ 安全・安心とともに、居心地の良い学校環境の充実

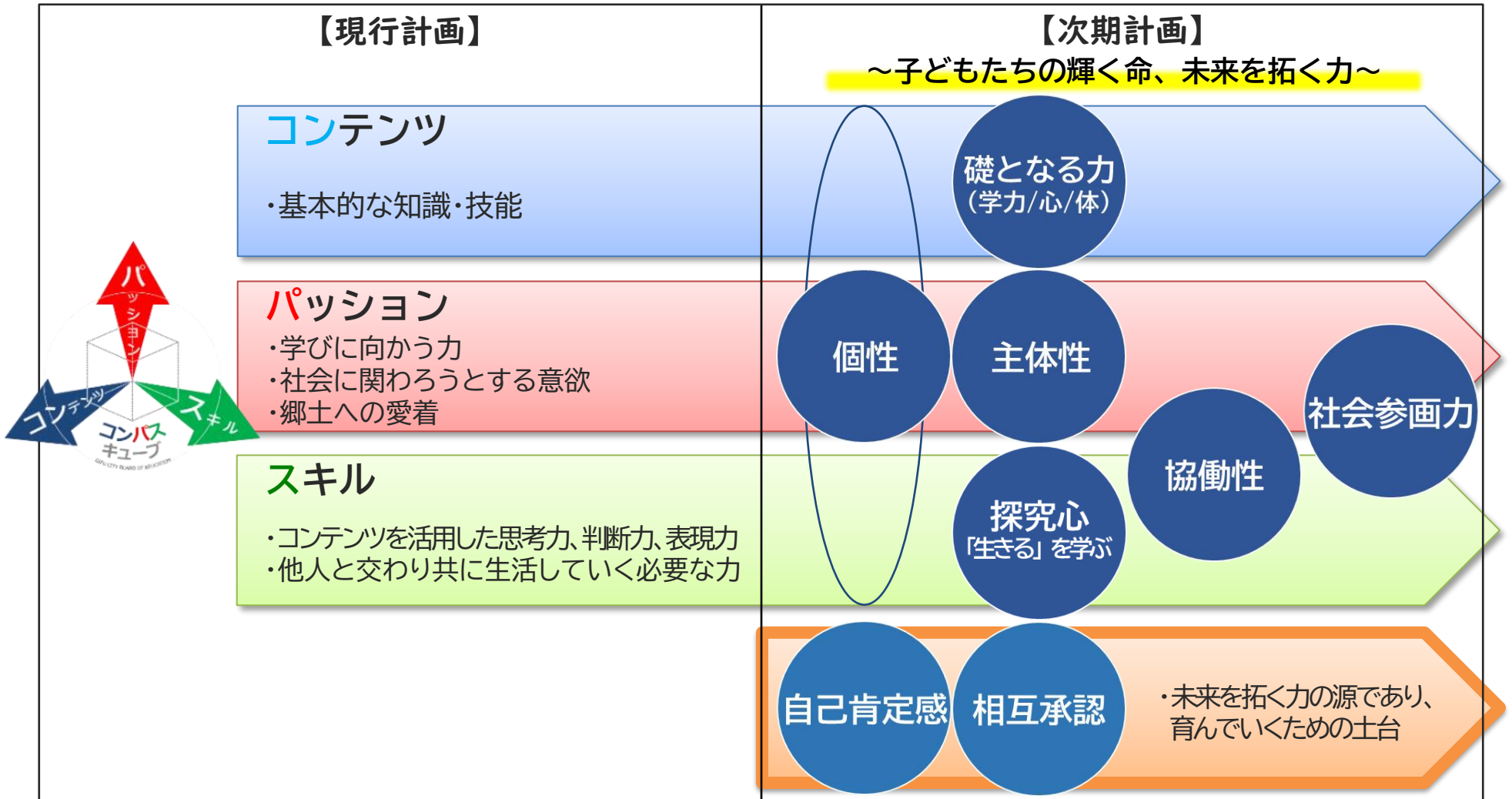
7. 子どもの学びを共に支える、家庭・地域の教育力の向上

- ・ “親学び”と家庭教育に対する相談・支援体制の充実
- ・ 社会における学びの基盤となる、人づくり・つながりづくり・拠点づくり
- ・ ワクワク学んだり、安心して過ごせる居場所づくり

3. 諮問事項2について

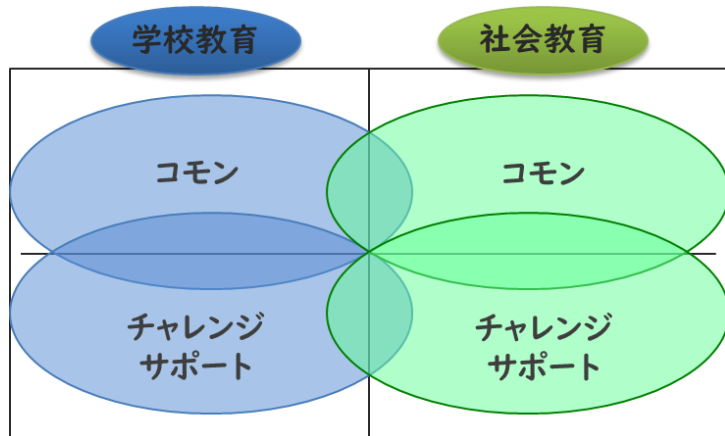
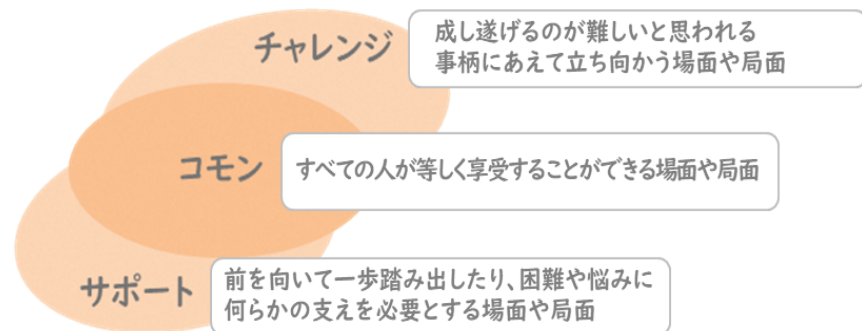
3-1. 「コンパス・キューブ」の考え方の整理

- コンパス・キューブが示す姿を「未来を拓く力」として整理し直すとともに、根底に持つべき姿（橙色部分）を含めて、一つの体系的なものとして捉える



3-2. 「コモン・チャレンジ・サポート」の考え方の整理

- 策定に際し、以下のとおり整理（一人ひとりの個に応じて適切に関わる考え方は不変）



【認識】

- ・コモンとチャレンジ、サポートの境界は不明瞭（それぞれの場面、局面は連続して存在すると考える）
- ・学校教育と社会教育それぞれのコモンとチャレンジ、サポートの境界も分けにくい（両方の属性を持ち、協働する取組みなど）



【発展】

- ・一人ひとりの個に寄り添い、適切な関わりを持つ考え方は堅持しつつ、コモンとチャレンジ、サポートの区別を設けることはしない
- ・学校・教職員と家庭・地域という主体で捉え、両者が共通の目標に向かって協働して取り組む計画体系を採用する

4. 諮問事項3について

4-1. 計画の形態について

- 子どもたちの発想するアイデアを以下のとおり、計画の形として具体化する予定



【子どもたちの意見】



【反映・工夫する点】

<ul style="list-style-type: none">・ 字やボリュームを減らし、分かりやすく	<ul style="list-style-type: none">● 「<u>本冊</u>」と「<u>参考</u>」に分けて作成 →本冊は重要部分に絞り、分かりやすいものとする
<ul style="list-style-type: none">・ 子どもにも伝わる、分かるように (広く市民の方々に分かりやすいように)	<ul style="list-style-type: none">● 本冊は、難しい言葉や専門用語を極力使わず、<u>誰にでも分かりやすい言葉</u>を選ぶ
<ul style="list-style-type: none">・ 色々なところで見られるように(データと紙)	<ul style="list-style-type: none">● いつでもタブレットやスマホ等で見られるよう、<u>デジタルデータの計画書</u>として作成する →紙で見たい人のために、<u>印刷にも対応</u>
<ul style="list-style-type: none">・ イラストを使用(絵本や漫画)	<ul style="list-style-type: none">● ページのイラストを<u>子どもたちに描いてもらう</u>
<ul style="list-style-type: none">・ 色使いをカラフルに	<ul style="list-style-type: none">● 白黒ではなく、<u>色を多く使い見やすくする</u>
<ul style="list-style-type: none">・ 全体デザインを工夫(身近なもの、ノートなど)	<ul style="list-style-type: none">● 子どもの意見で出た、<u>ノートをモチーフにする</u>
<ul style="list-style-type: none">・ 動画やアニメーションをつくる・ 教育長のメッセージがあるとよい・ 対談形式があると面白い(語りかけ、話し言葉)	<ul style="list-style-type: none">● 計画に込める思いを<u>教育長が語る動画</u>を作成 →小学生、中学生の質問インタビューに答える動画 →リンク・QRコードで、計画書から見られるように

中学生とのオンライン意見交換

【目的】 計画媒体の形やデザインを今後考えていくにあたり、計画の主役である子どもたちの視点やアイデアを聞くとともに、今後の策定作業においても協業し、一緒に作り上げていく活動としていくことを目指す

【日時】 8月2日(火) 14:00~15:30

【参加者】 市内中学生(21名)、大学生(8名)、水川教育長、中井紀和氏
ファシリテーター
(ふるさと岐阜市活躍人財)

【場所】 オンライン(Teams)

【進行】 1、水川教育長から(趣旨説明)
2、事務局から(計画の概要説明)
3、中井氏から(プロモーションを考えた言葉やデザイン手法を学ぶ)
4、フリートーク(計画の形についての意見交換)
※ 大学生中心にグループ別トーク→全体共有



【主な意見まとめ】

【工夫・内容】

- ・ボリュームを減らし、分かりやすいもの
- ・子どもにも伝わるような工夫
- ・語りかけ、問いかけ、話し言葉
- ・色々なところで見れる(データと紙)
- ・対談形式があると面白い

【デザイン】

- ・イラストを使用(小中学生に募集)
- ・表紙デザイン(身近に感じられる工夫)
- ・色使いカラフルに
- ・興味を引くタイトル(通称名)
- ・動画やアニメーションをつくる
- ・絵本、漫画みたいにする

5. 諮問事項4について

・定量的な評価指標は、変化を見せるだけではない、教育の本質を踏まえた数値を置くことができなければ、形骸化したり、数値だけが独り歩きして全て評価されてしまう恐れがある。

・評価の役割に沿う報告書を作りつつ、見せていく相手は選ぶかもしれないが、子どもの努力や先生たちの研鑽があって事が進んだ、改善されたというような、皆の頑張りを表現できるものになると良い。また、子どもたちがこうなったという姿を示す中で、そこから岐阜市の教育の価値を発信できると良いと思う。

点検評価にかかる 見直し事項

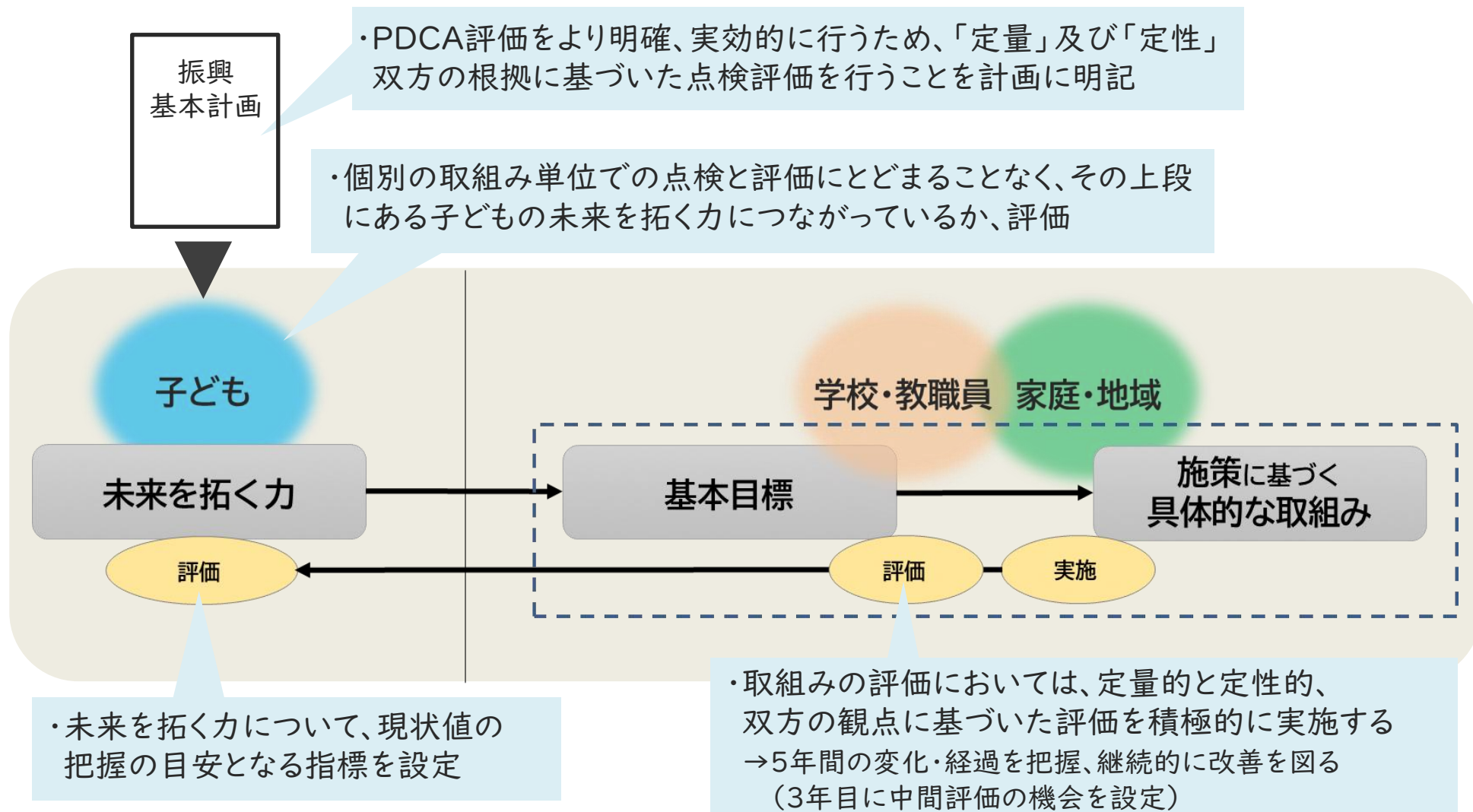
・5か年の経過を追う中で、中間評価の機会を作ってはどうか。

・今の子どもの基本目標の柱建て3つを達成したい姿と考えたとき、評価できるのか不安。今の1~3だけでは、具体的に評価できるような姿が見えないように思う。

→子どもたちにどんな姿になってほしいのか、もう少し達成したい姿(=子どもたちの基本目標にあたる部分)をしっかりと位置づけないとイメージもできないし、評価しようにもできないと思う。達成したい姿として、行き着くゴール、子どもたちの姿をしっかりと書き込むことが必要だと思う。

5-2. 計画の点検評価の手法について(修正案)

- 委員意見を踏まえ、子どもの未来を拓く力を育むための過程を評価する体系に、再整理



5-3. 点検評価の手法における今後の方向性 【前回提示資料】

(国) 次期教育振興基本計画の策定について(諮問)

第3期教育振興基本計画及びその点検結果を踏まえつつ、多様な教育データをより有効な政策の評価・改善に活用するための方策について

(本市) 第4期岐阜市教育振興基本計画の策定について(諮問)

*
EBPMの考え方に基づく、客観的な根拠に意を用いた計画の点検評価の手法










現在の点検評価について

- ・取組みについて、事業の進捗・達成状況を詳細に記述、委員会での意見を反映したPDCAを実施
- ・評価について、定性的な観点からの評価が中心。また、施策(事業)単位での評価が中心。

委員意見(点検評価委員会)

- ・達成を目指す目標として客観的な指標を設けようとする場合において、それ自体が必ずしも数値でなくても良いのでは(定性的な目標の方が望ましかったり、定量的な目標を置きにくい場合もある)
- ・重要なのは、点検評価の根拠として「**定量的な指標**」と「**定性的な特徴の記述**」のバランスであり、双方の根拠に基づいて評価されていることが重要
→ 評価の客観性を高める、共通理解できるようにする、確実な改善につなげるということが大事

5-4. 未来を拓く力の把握目安と考える指標

未来を拓く力	目安となる指標(一部抜粋)
	<ul style="list-style-type: none"> ・自分にはよいところがある ・学校に行くのは楽しい ・いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う ・困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる
	<ul style="list-style-type: none"> ・本市の学力の状況 ・人が困っている時は進んで助けている ・人の役に立つ人間になりたいと思う
	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の解決に向け、自分で考え、自分から取り組んだ ・難しいことでも失敗を恐れず挑戦している
	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と協力する、自分と違う意見について考えるのは楽しい ・話し合う活動を通して、自分の考えを広げたり深めたりできている
	<ul style="list-style-type: none"> ・自分にはよいところがある ・先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う
	<ul style="list-style-type: none"> ・学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめたり、新しいものを創り出している ・自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている
	<ul style="list-style-type: none"> ・住んでいる地域の行事に参加している ・地域や社会をよくするために、何をすべきかを考える

6. 參考資料

6-1. 計画の枠組みの全体像 【前回提示資料】

学校・教職員

今日が楽しく明日も
また来たくなる学校

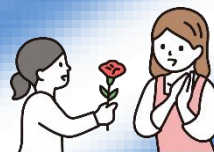


学校



子ども

未来への扉を開ける力



健やかな心と体



自分らしさ



地域



学びのチカラ

教育大綱

一人ひとりが価値ある
大切な存在として
互いを認め合う教育



家庭

家庭・地域

誰もが学びで繋がり合う
教育によるまちづくり

【子ども】未来への扉を開ける力

構成要素の例示

①今を生きる、みんなの自分らしさ (Identity) を大切にします

→大綱の主要部分、生命の尊厳の理解、人権尊重

②私の未来を描く、学びのチカラを身につけます

→知・徳・体の「知」、確かな学力、自律的に学ぶ力

③毎日が元気で楽しい、健やかな心と体を育みます

→知・徳・体の「徳」と「体」

【学校・教職員】今日が楽しく、明日もまた来たくなる学校

構成要素の例示

① 誰もが心温かく、元気と安心に満ちた学校をつくれます

→ 生き方の探究学習、人権教育、法教育、心の健康サポート、性教育、健康教育、給食

② 個に応じた学びと仲間との学び合いから、確かな学力を育みます

→ 個別最適な学び、協働的な学び、教育DX、教員の資質能力向上

③ 誰一人取り残さない、必要な支援と学びの機会を届けます

→ 特別な指導、支援、ニーズを広く含む

④ 自分らしさを伸ばし、可能性を引き出す学びをつくれます

→ 探究的な学び、キャリア教育、ふるさと岐阜市学「ぎふMirai」、人材バンク、デジタル・シティズンシップ、デジタル環境の充実

⑤ 安全を守り、誰もが居心地の良い学校環境を整えます

→ 学校環境整備、長寿命化、通学路、防災、子どもの意見を反映した学校づくり、働き方改革、教育DX

⑥ 新しい時代の学びを支える、未来の学校づくりに取り組みます

→ 学び方、義務教育学校など学校形態の多様化

【家庭・地域】誰もが学びでつながり合う、教育によるまちづくり

構成要素の例示

① 家庭での学びの充実を支援します

→家庭教育学級、親子ふれあい教室、決めて守ろう!我が家のルール運動

② 学校とともに、社会における学びの基盤を支えます

→コミュニティ・スクールの深化、社会教育施設、団体活動の充実支援

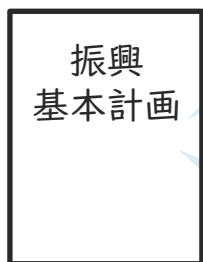
③ 地域の“カッコいい”を知る、体験と学びの機会をつくります

→ふるさと岐阜市学「ぎふMirai」、多様な担い手とのネットワーク化、協業

④ 子どもがワクワク学んだり、ほっとできる居場所をつくります

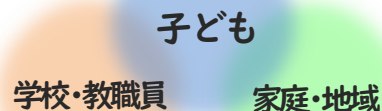
→サードプレイスの充実、放課後の安全安心な居場所づくり

6-5. 計画の点検評価の手法について(案) 【前回提示資料】



・PDCA評価をより明確、実効的に行うため、「定量」及び「定性」双方の根拠に基づいた点検評価を行うことを計画に明記

・個別の施策(事業)単位での点検評価にとどまることなく、大局的な観点からも、計画についての点検評価を行う



達成したい姿

基本目標

基本目標に紐づく施策(事業)

	R5	R6	R7	R8	R9
点検評価	基本目標の達成度				
定量指標	数値化指標の経過(客観評価)				
定性指標	取組み状況の経過(質的評価)				

・各主体ごとに、データに基づく客観的な指標を検討、設定
→各々の基本目標~各施策(事業)がその達成手段

・各施策(事業)の評価結果を総合的に勘案し、基本目標の達成度を評価

・各施策(事業)の評価においても、これまでの定性的な評価指標とともに、定量的な評価指標を積極的に用い、双方の根拠に基づいた評価を推進
→5年間の変化・経過を把握し、継続的な改善に反映

6-6. 委員名簿

● 計10名、任期はR4.6.1からR6.5.31までの2年間

50音順、敬称略

氏名	所属	役職
青山 朋宏(あおやまともひろ)	岐阜小学校学校運営協議会	会長
荒木 裕子(あらかきゆうこ)	臨床心理士	スクールカウンセラー
上松 英隆(うえまつ ひでたか)	岐阜市小中学校長会	岐阜中央中学校長
尾関 圭司(おぜきけいじ) <small>副委員長</small>	岐阜商工会議所	濃飛倉庫運輸株式会社 代表取締役社長
玉置 崇(たまおき たかし) <small>委員長</small>	岐阜聖徳学園大学	教育学部 教授
樋田 光代(といだみつよ)	岐阜市小中学校長会	岐阜特別支援学校長
長谷川 哲也(はせがわ てつや)	岐阜大学	教育学部 准教授
広瀬 みゆき(ひろせ みゆき)	岐阜市立幼稚園長会	加納幼稚園長
福地 淳宏(ふくち あつひろ)	岐阜聖徳学園大学	教育学部 准教授
松岡 桂(まつおか かつら)	岐阜市PTA連合会	監事

6-7. 年間の会議日程

● 今回を含め、年間4回の会議を開催

回	日時	場所	協議内容
第1回	6月1日(水) 13:30~15:30	市庁舎 6-1大会議室	①計画策定に際しての現状把握、考え方 ②育みたい力、取組みの基本的方向性に関する審議
第2回	8月19日(金) 14:00~16:00	ぎふメディアコスモス かんがえるスタジオ	①第1回会議の意見まとめ ②計画の全体像、基本目標に関する審議
第3回	10月4日(火) 13:30~15:30	市庁舎 6-1大会議室	①第2回会議の意見まとめ ②計画(答申骨子)に関する審議
第4回	11月8日(火) 13:30~15:30 (予定)	市庁舎 6-1大会議室	①第3回会議の意見まとめ ②計画(答申(素案))に関する審議・決定

6-8. 策定スケジュール

● 教育委員会の意見、総合教育会議での協議意見も踏まえながら、策定を進める

